



～ 登校するのが楽しいと思える学校を目指して ～

学校だより

令和8年8月26日(水) 発行

第 3 号

札幌市立白石中学校

発行責任者 木原 英俊



当たり前への感謝と 人との関りを大切に

校長 木原英俊

約1か月間にわたる夏休みが明け、いよいよ2学期がスタートしました。改修を終え、明るく綺麗にリニューアルされた体育館で全校生徒が一堂に会し、元気な笑顔とともに始業式を行えたことを大変嬉しく思っています。不便さを経験したからこそ、これまで当たり前のように過ごしていた環境のありがたさを、改めて感じる機会となりました。改修工事はもう少し続きますが、この不便さから学ぶ経験も、今だからこそ得られる貴重な機会と捉えています。

また、今年の夏は、北海道は比較的過ごしやすかったものの、全国的には記録的な猛暑に加え、地震や豪雨による大きな被害が報じられました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災地の日も早い復旧を心より願うばかりです。だからこそ、こうして大きな事故もなく無事に新学期を迎えられたのも、決して「当たり前」ではありません。多くの支えと幸運の賜物であることに、改めて深く感謝したいと思います。

さらに、夏休み中の地域との関わりに目を向けますと、萬蔵祭などの地域行事に笑顔で参加している生徒たちの姿や、近隣施設での演奏を通して地域の皆様に元気と感動を届けてくれた吹奏楽部の姿も印象に残っています。本校の生徒が、いかに地域の方々の温かい眼差しと支えの中で育まれているかを、感じることができました。

さて、2学期は1年間で最も充実した学期といわれますが、体育大会や文化祭といった大きな全校行事があることも、その理由の一つです。北ガスアリーナでの体育大会や、本校の伝統である合唱コンクールを中心とした文化祭は、仲間と共に取り組む時間が長く、関係性を深めていける貴重な機会です。時には意見の食い違いや不安・葛藤が生じることもあるかもしれませんが、しかし、本気で取り組むからこそ生まれる葛藤が、人と関わることでしか得られない「成長の証」につながっています。どれほど親しい友人であっても、何もかもが自分と同じという人はいないはずです。人と深く関わり、違いに直面したときこそ、相手の想いを理解しようと努め、互いの着地点を見つけようとする「他者尊重の学び」が生まれます。

行事はもちろんですが、日々の学校生活においても「人と関わり、互いを尊重する」意識を積み重ねていくこと。この小さな積み重ねが、生徒の人としての成長につながっていくと信じています。日常の当たり前に感謝し、周囲とのつながりを大切にしながら、実り多き2学期となるよう、教職員一同努めてまいります。保護者・地域の皆様におかれましては、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。



2学期始業式 学年代表生徒のことは

【1年生 代表生徒】

私が1学期で頑張ったことは、「行事の事前準備」です。1学期でやった行事といえば、校外学習ですが、とても大変でした。何を目的としてどこに行くのか、班の考えがまとまらず大変でした。しかし、班の人たちと協力し、考えをまとめ、校外学習を無事に終えることができました。この経験を生かして、2学期の行事も頑張りたいです。特に、後1週間後にある体育大会は1学期でたくさん練習したので、本気で取り組みたいと思います。

2学期に頑張りたいことは「呼びかけ」です。中学校が始まって3か月が経ちましたが、まだ分からないこともあれば、少し浮かれている様子も見えていました。自分のクラスも含め、自分の学年の様子を見ていると、授業中叫び始めたり、いらぬ音を出したり、落ち着かない様子が見られました。その部分などで人に迷惑をかけたりもしていました。この行動に注意する人も少ししかいなかったので呼びかけを2学期は強化したいと思います。

また、2学期は夏休みを挟んで忘れたこともあるかもしれませんが、1学期で言われたことなどを思い出して、楽しい2学期にしたいです。他にも、学習面や生活面などを2学期で見直し、より良い学校生活にしたいです。

【2年生 代表生徒】『1学期をふり返って』

私は1学期、「あきらめない心」の大切さを実感しました。

1年生のころはたくさん勉強していました。ですが、定期テストでは毎回前の点数よりも低くなり、点数を見るたびに、ショックで勉強のことがもっと嫌いになりました。ですが、それ以上に悔しい思いがだんだん強くなり、前の点数より点数を上げたいという気持ちを持つようになりました。それから、自分の勉強のやり方をあらためました。たとえば、勉強法の本を読んだり、モチベーションを上げるために、自分の部屋には今まで自分が勉強して丸つけをした紙を大量に貼ってやる気を出したり、スマホの時計ではなくタイマーを使ったりなど、自分に合った、いろいろな工夫をしました。すると、2年生の1学期のテストでは、点数を上げることができ、あきらめなくて良かったと思いました。それによって、自分はまだまだ点数を上げていきたいと思うことができました。

今までやってきたことは無駄ではなく、結果に結びつくことを実感した1学期でした。2学期では、この「あきらめない心」を生かして、部活や体育大会、合唱コンクールなどをがんばりたいです。

【3年生 代表生徒】

私達にとって中学校生活最後の夏休みが終わりました。今日から2学期が始まります。この夏休み、みなさんはどのように過ごしましたか。夏を最高に満喫した人も、家でダラダラ過ごした人も、勉強や部活に打ち込んだ人もいます。

私はこの夏休み、毎日コツコツと勉強し、自分を変えようと意気込んでいました。けれど振り返ってみると、もう今の友達と思い切り遊べるのは最後なのではないかと寂しくなり、勉強なんてしてる場合じゃない!と思っていました。そのため私の行動は計画から大きくそれたものばかりでした。何かと理由をつけて山のような宿題から目を背けたり、つつい疲れたと息抜きに遊びに行ったりしていました。カレンダーを見るともう8月の中旬、流石に焦って宿題に手を付け始めると、これが意外と楽しいもので、夕食を食べるのを忘れそうになる日だってありました。私はこの夏休みで学んだことが2つあります。1つ目は先程の、やる気は始めてから出てくることが多いということです。苦手な教科、単元でも同じことが言えるかは分かりませんが、自分のやる気スイッチは、無理にでも勉強機に向かうことでしか押せないんだなと知りました。2つ目は、中学生はやりたいこともやらなくちゃいけないことも多すぎることです。部活で結果を出したい、友達と遊びたい、スマホをいじりたい、けどテスト勉強もしないといけない、家の手伝いもある、学校行事の準備も忙しい。けれどやらなくちゃいけないことばかりやっていると、体も心も疲れてしまいます。毎日10分だけワークをやる、など自分に合わせたレベルから、ゆっくりとできることをやるようにしたいと思います。

やることが山積みだからこそ、今ある時間を有意義に使って、自分のペースで無理なく頑張ることが大切だと改めて実感した夏休みになりました。自分のやる気スイッチを自分なりに上手に押し、たまには息抜きもしながら、残り少ない中学校生活を楽しんでいきたいです。

栄誉をたたえて～部活動結果 2026～

【卓球部】

- 第56回 北海道中学校卓球大会
男子シングルス

☆第3位 全国大会出場

【バドミントン部】

- 第57回 北海道中学校バドミントン大会
女子シングルス

初戦敗退

【吹奏楽部】

- 全日本吹奏楽コンクール 第71回北海道予選 札幌地区大会
中学生B編成の部 金賞 ☆札幌地区代表 全道大会出場

教育実習生 紹介

社会科は9月4日（金）までの2週間、その他の教科は9月18日（金）までの4週間、本校では未来の教育を担う教員育成のため、教育実習生を受け入れます。

教科	氏 名	在 学 大 学	指導教諭（学級）
社会		北海道教育大学札幌校	
国語		北海道教育大学札幌校	
理科		北海道教育大学札幌校	
保健体育		北海道教育大学札幌校	